

第1分科会 個に応じた指導の充実（特別支援学級の取組）
 テーマ「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」
 提案2 「集団活動の中で、一人一人が生きる授業づくり」
 ～「ひまわりパンやさん」における取組～

発表者 愛媛県 松山市立姫山小学校 教 諭 山口 文
 愛媛県 松山市立姫山小学校 教 諭 乗松 三和子
 司会者 愛媛大学教育学部附属特別支援学校 教 諭 土居 克好
 助言者 広島県教育委員会 特別支援教育課 指導主事 山根 智香子

I 実践に当たって

本校の特別支援学級では、朝の会や生活単元学習などで、複数の学級で共に活動を行うこともあり、年齢や発達段階が大きく異なる集団で、友達と一緒に学習することを楽しんでいる。「やってみたい、できるようになりたい」という思いや願いをもって活動したり、自分に任されたことにやりがいを感じ、進んで取り組んだりする姿が見られる。一方、活動に継続して取り組むことや、周りの状況や相手の気持ちを考えて行動を調整することが難しい児童がいる。また、身近な友達や教師に自分の思いや考えを積極的に伝えようとするが、語彙の少なさ・発音の不明瞭さから思いを上手く表現することが難しい児童もいる。自信のなさから交流及び共同学習を実施する学級においては思いや考えを表現することに消極的になる児童が多い。個々の実態から、高めたい力を次のように考え単元を構成した。

- ◎ 活動に目的意識や見通しをもち、自ら考え、判断して行動する力
- ◎ 周りの状況や相手の気持ちを考えて行動を調整する力
- ◎ 自分の思いや考えを適切な言葉で表現する力
- ◎ 相手や場に応じた適切な伝え方を身に付け、自信をもって人と関わる力
- ◎ 自分の行動を振り返り、気付いたことや考えたことを次に生かそうとする力

本単元は、協力して調理したパンでももてなしすることを目的とした活動である。調理や接客は、興味・関心の高い活動であり、一人一人の得意な面やよさを生かした多様な役割設定が可能である。また、客とのやりとりを通して、人と関わることの楽しさを味わい、相手の立場や気持ち、状況などに応じた適切な言動を体験的に身に付け、自信をもって人と関わる力を育てることにつながる学習である。集団で協働して活動に取り組む中で、一人一人のもてる力を生かし、伸ばしていきたいと考えた。

<単元計画(全35時間)>

主な活動内容	時数
パンを作ってみよう ・単元のオリエンテーション ・パン作りの実習をする。	2
パンやさんで売っているパンを調べよう ・パン屋に見学に行き、見たり聞いたりしてきたことを紹介し合う。(売っているパンの種類・おいしく作るための工夫等)	2
パンを作ろう「専門家に学ぼう①」 ・ものづくりマイスターからパン作りを教わる。	3
パンを作ろう「おうちの人に食べてもらおう」 ・家の人に分かるように、パンの作り方をまとめる。 ・家の人と一緒にパンを作る。	5
「ひまわりパンやさん」でおもてなしをしよう① ・必要な役割やメニューについて話し合う。 ・役割分担をして、仕事の練習をする。 ・おもてなしのパンを作る。 ・先生方をおもてなしする。	10
おもてなしをしよう「専門家に学ぼう②」 ・「おもてなし」について料理や製菓・接客の専門家の実演から学ぶ。	3
お店に行ってみよう ・お店に見学に行き、厨房での料理の様子を見たり、接客の仕方を学んだりする。	3
「ひまわりパンやさん」でおもてなしをしよう② ・近隣3校の「なかよし交流会」で、友達をおもてなしする。	7

II 実践内容 ～主体的・対話的で深い学びを実現するために～

1 児童の考えや話し合いを重視

活動を進めるに当たっては、児童が選択したり話し合っただけで決まったりすることを大切にしました。話し合いの際には、児童から出た考えや言葉を黒板や紙に書いて視覚的に示すことで、話し合いの内容を理解しやすくし、自分の考えを友達の考えと比べたり、もっとこうしたらどうかという意見を述べたりすることにつながった。自分の考えを表現することに消極的であった Aさんは、「お客さんのために、パンの横におすすめポイントを書いたものを置くといい」など、自分のアイデアが形となっていくことで、積極的に発言する姿が多く見られるようになった。

2 見通しをもち、自ら考え活動に取り組むための工夫

「自分たちでパンを作って食べる」⇒「パン作りの専門家に教わりながらパンを作る」⇒「家の人と一緒にパンを作る」⇒「パン屋さんに出すパンを作る」と、何度もパン作りの機会を設定した。その中で、生地をボウルに入れる児童、材料を混ぜる児童、ボウルを手で押さえる児童と、自然と役割分担して取り組むようになった。いつもは他の児童の様子を見ていることが多かった Bさんが、パンを発酵させている間に、使った道具を進んで洗ったりトースターを準備したりするなど、自分で考えて活動に取り組む姿が見られた。また、蓋に材料名と分量を書いたタッパーや工程ごとに紙をめくりながら確認する手順書、生地を6等分する補助シートなど、教具を工夫したことで、自分たちの力で活動に取り組むことができた。

3 グループ編成や役割設定の工夫

それぞれの特性やよさを生かして活動できるような3人一組のグループを編成し、パン係、注文係、飲み物係と役割を分担して取り組むようにした。飲み物係の児童が飲み物を準備する際に、注文係の児童が注文と合っているか確認したり、コップを用意するのに手間取っているのを助けたり、コップに注ぐ量が少ないことを教えたりするなど、互いに協力しながら取り組む姿が見られた。

また、本校の教師を客として招待し「ひまわりパンやさん」を開店させた。その際には、グループの3人が姿勢よく並び、「いらっしゃいませ」という気持ちのよい挨拶で教師を迎えた。おすすめのパンについて自信をもって伝えるCさん、「ご注文は何になさいますか」と丁寧な言い方で飲み物の注文を取るDさん、オーダーのあった飲み物を手際よくカップに注ぎ、教師の顔を見ながら飲み物を給仕するEさんの姿が見られた。一人一人が「先生方を、心を込めておもてなししよう」という気持ちで、それぞれの役割に生き生きと取り組んでいた。

4 目的意識や相手意識の明確化

「ひまわりパンやさん」を開店するに当たっては、「お世話になっている先生方をおもてなししよう」という目的を共有し、相手意識をもって活動に取り組むことを大切にしました。相手を意識することで、いつもは乱雑な文字を書くEさんが、一文一文字心を込めて丁寧に招待状を書く姿が見られた。また、自分たちが食べるパンを作った時には出来栄には無関心だったがFさんが、教師に食べてもらうパ

ンを作る際には、「おいしそうに見えるように作ろう」や「焦がさないように気を付けよう」と、おいしいものを食べてもらいたいという気持ちでパンを作る様子が見られた。更に、身だしなみに無頓着で、目にかかるくらい前髪を長く垂らしていたGさんは、お客様に気持ちよく過ごしてもらうために、髪をまとめて前髪をピンで留めるなど、自ら気を付けようとする意識が見られるようになった。最初は飲み物をコップ一杯に注ぐなど行動の調整が難しかったHさんは、飲み物の量が均等になるよう、印を見ながら慎重にコップに注いだり、こぼれないように落ち着いて運んだりするなど、丁寧に行動しようとする様子が見られるようになった。

5 目標の意識化と振り返りの重視

接客の練習の際には、毎回、活動前に自分の目標を確認し、活動後に振り返りを行った。自分の目標を自覚できるよう、名札に「大きな声で気持ちのよいあいさつをします」などと宣言形式で書いたり、パン屋さんの朝礼で一人ずつ目標を言っていく場面を設定したりした。評価を行う際には、タブレットで撮影した動画を活用した。「大きな声ではっきり



〈動画を見ながら自分の行動を振り返る子どもの様子〉

言う」という目標を立てたIさんが、活動後の振り返りで「できました」と言ったものの、動画で自分の様子を見て、「声が小さい」と気付くなど、動画の活用は、自分の行動を客観的に把握するのに効果的であった。グループで、互いを評価し合う際には、「コップを置く時に、ドンと置かず ゆっくりと置くとよかったです」というJさんの発言を聞いたKさんが、その後、そっとコップを置く様子も見られた。

更に、客役の教師が、お客様アンケートに答える形で、児童一人一人の目標を客の視点から評価するようにしたことで、「お客様が気持ちよく過ごすためにどうすればよいのか」という視点で自分の行動を振り返ることができた。当日のお客様アンケートは、児童の頑張りを認める内容が多く、自分たちがおもてなしをした教師が喜んでくれたという満足感や達成感を味わうことができた。

お客様アンケート

☆お客様きやくさまの声をこゑ お聞かせください。き

たんとう 担当	担当の目標	チェック
	目標に対してのコメント	
注文	正しい言葉遣いとはっきりした発音で注文を聞き、係の人に伝える。 コメント 席に着くと、いきなりサックと引いてくれたね。周りの友達にも、水戸でアドバンスをしてくれて、マジマジでたたと聞いてくれた。 不吉の取り方も、声ははっきりして、分かりやすかった。	
パン	正しい言葉遣いでお客さんにおすすめのパンを紹介する。 コメント びっくりした声で、分かりやすかったです。おすずのの仁も上手でした。おすずのレトルトあんパン、とってもおいしかったです。えかあがすりました。	
飲み物	飲み物をこぼさないようにつぐ。 コメント 飲み物をこぼさないうつに、上手についでいりました。とってもおいしかったです。飲み物もヒコスタの置き忘れ、実況していました。	

たいへんよくできていました。

よくできていました。

できていました。

④ 〈全体を通して〉

接客も、マジマジと、感動しました。

待っている間も、ちゃんと並んでいて、すばしかったです。

それぞれの目標も、頑張ったから、仕事もして、と感動しました。

おいしかったです。ごちそうさまでした。

〈お客様アンケート〉

Ⅲ 成果と今後の課題

1 成果

- 児童の実態や目指す姿を踏まえた単元を構成し、得意なことを生かしながらそれぞれの課題に取り組めるような場面を意図的に設定したことで、集団活動の中で、一人一人の力を高めることができた。また、目的や相手意識をもちながら主体的に役割を果たすことや協力して活動すること、目標を明確にし、振り返りを生かしてよりよく行動していこうとする意識は、本単元後、様々な場面において生かされていた。
- 単元全体を通して、地域のパン屋さんやパン作りの専門家、洋食店のスタッフなど様々な人から学ぶ機会を設定したことは、地域や社会とつながり、専門家として働く人に憧れの気持ちをもつことにつながった。

2 課題

今後は、一人一人の高めたい力を各教科等との関連において検討し、各教科等に関わる見方・考え方を生かしたり働かせたりすることのできる内容構成の検討を行うことで、児童が確かな力を身に付けることができるよう指導の充実を図っていききたい。

〈指導・助言〉

本実践は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、目的意識、相手意識を明確にして、目標の意識化と振り返りを重視した取組である。

主体的な学びに向けて、目標を明確にし、必然性のある活動の中で、児童に目的意識（何のために）と相手意識（誰のために）をもたせ、さらに、目標を達成するための見通しをもたせることで、意欲的な活動へつなげていくことができている。

また、対話的な学びに向けて、それぞれの特性やよさを生かして活動できるよう、一人一人が様々な役割を担い、集団全体で協働して取り組めるよう活動を設定している。お互いに協力しながら取り組む中で、児童が選択したり、話し合っ決めてたりすることを大切にしている。児童同士、教職員及び地域の方との対話を通じて、自分の考えを友達の考えと比べたり、どうしたら、もっとよくなるか意見を述べたり、更に友達の考えを取り入れたりする中で、自己の考えを広げ深めることができている。そのような活動の中で、仲間と関わって活動するよさを実感している。

「深い学び」に向けて、本事例では、児童の実態から、客観的に自分の行動を振り返ることができるよう、タブレットで撮影した動画を活用したり、「お客さまアンケート」を用いたりするなど評価の場面の工夫がなされている。活動や学びの振り返りを行う際には、自己評価や他者評価を効果的に取り入れ、評価方法を工夫することが大切である。自己の変容や成長を自覚させ、更に、新たな課題を発見させることで、次時の学習の具体的な目標の設定へとつなげるという視点を今後も大切にしていきたい。